



チームTAGとは…多頭飼育問題に関する「学び」・「協議」・「研究・発信」の場

ガイドライン発行年の5月、集まるひとつのきっかけとなったのが、とある住民の猫への不適切な飼育対応であった。生活困窮者自立支援機関“まいさぼ”の声がけで関係者が集まる。検討ケースは、生活支援及び居住支援、動物の多頭飼育への問題がある世帯である。その際に支援介入の計画と同時に多頭飼育の絡む世帯へアプローチを検討する。ケースは、不登校の子を持つ母子家庭、失業したばかり、環境不衛生、家賃未納などの問題があった。

こうしたケースへの対応を考えていく中、動物愛護の活動と飼主への福祉的なアプローチをつなぐ取り組みが必要となり、そのメンバーの共通理解が進みチームTAGが形成された。

チームの位置づけと方向性

TAGの特徴は定期的な対話式ミーティングを開催するところであり、その中で問題の解決はもちろん、専門分野としての視点、根幹へのアプローチへの視点が意見として飛び出す。

ハイリスクな問題は、緊急対応ができる動きと、問題への関心を広げるためのポピュレーション（集団全体へ向けた）アプローチを並行して考えていく2面性が常に必要となる。社会福祉と動物愛護の面が互いに尊重し合い、背景を想像しながら議論を重ねていくのが特徴である。問題の解決には時間軸というステージ毎に活動内容が違ってきているが（普及啓発・早期発見・崩壊時の対応等）対話式で行われるミーティングは他の分野の領域はもちろん役割や状況、個人の悩みなどを知れることで、連携はもちろん多くのアイデアで助けたり助けられたり、現在の活動にさらに自信がついたり、自身の活動へ波及している。

多頭飼育の問題は人と動物の問題ではない。人と動物を飼育する人との問題である。



ミーティングは毎月、誰でも自由にスポット参加できるような形で開催されます。メンバーは社会福祉、動物愛護、生活環境、法律関係、行政、民間問わず参加されています。初めての方や、ボランティアの方、現状の支援で悩んでいる方など状況を共有し、答えが出なくても、ひとりで決めずに全員参加の意思決定や承認しあうことで自己効力感が増します。

これまでの取り組み

- 第1回(R4)4月27日 チームTAGに期待をしていること、チーム名称の決定、今後の展開
- 第2回 5月25日 継続案件事例について、多機関連携で介入時の思い・課題の共有この会の目的(学びの場・協議の場・研究と発信の場)
- 第3回 6月23日 新規案件事例2件の紹介、対応についての振り返り
- 第4回 8月16日 継続案件事例についてその後の検討、今後のチームの目指す方向性
- 第5回 9月27日 情報交換、継続案件事例についての経過報告、2月22日セミナー内容検討
- 第6回 10月25日 情報交換(10月21日の研修会の報告など)継続案件事例経過報告、2月22日セミナー草案
- 第7回 11月18日 東御市開催地域猫セミナーの振り返り、継続案件事例について、セミナーの内容検討、動物と福祉の連携
- 第8回 12月8日 保健所管内の新規事例共有、避妊去勢手術の時期・助成制度について事例経過報告、セミナーの内容検討
- 第9回(R5)1月4日 継続案件事例について、保健所管内16匹の多頭飼育事例についてセミナーの内容検討
- 第10回 1月31日 継続案件事例についての多頭飼育のその後の事例共有、新たな参加者、セミナーの内容検討
- 第11回 2月10日 2月22日セミナーの打ち合わせと役割分担
- 第12回 3月30日 2月22日セミナーの振り返り
- 第13回 4月27日 ワンウェルフェアプロジェクト、事例(継続&新規)動物愛護の推進(飼猫の苦情対応例から)夏のボランティア体験教室
- 第14回 5月24日 まいさぼと多頭飼育についてオフィシャルな共有について、新規事例について、夏のボランティア体験教室
- 第15回 6月29日 継続案件事例について検討
- 第16回 7月25日 継続案件事例について経過報告、松井氏「9月23日野良猫講習会」藤井氏「ねりまねこ」より依頼の講義、意見交換